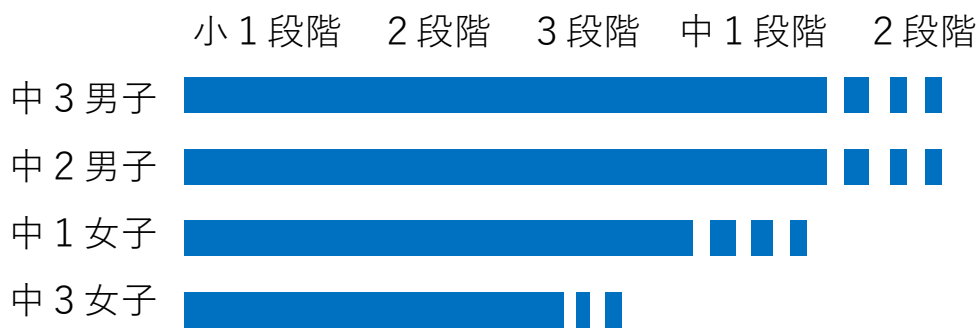
知的障がい教育における「数学」の授業づくり
活用する力を育てる授業の工夫～習熟度の差が大きい集団での実践～

中学部「数学科」
スペードグループ

上中　博美　（熊本大学教育学部附属特別支援学校）
吉村　　昇　（熊本大学大学院教育学研究科）
菊地　哲平　（熊本大学大学院教育学研究科）

中学部スペードグループの実態



中３男子　計算得意　理由や根拠を話すことが苦手　集中が続かない　興味関心の偏り

中２男子　計算得意　理由や根拠を話すことが苦手　全体指示苦手

中１女子　意欲的　何でも興味をもつ　定着難しい　理由や根拠を自分なりに話す

中３女子　意欲的　衝動性　定着難しい　自分の考えを話すことが難しい

★習熟度の差が大きい／学習の定着，他の場面での活用が難しい

授業を通して身に付けてほしい力

数学の基礎的な知識・技能
基準となる考えをもとに判断する力
既習事項を生かして考える力
身の回りの世界が数学で捉えられることに気付く

授業づくり

●基礎を学習し，既習事項を活用する展開（ミッションをクリアしていく）　般
●ペアやグループでの活動と個別での活動の目標を明確に　習
●個別の対応は宿題でも　習
●定着させたい内容を抽出し毎回ミニコーナーで扱う　定　習

数と計算：基本の繰り返し
（最も習熟度の差が大）
測　　定：量感
図　　形：細部への注目，似ている／違うを見付ける
データの活用：よさを知ること

中学部共通事項

数学的な見方・考え方

帰納的：いくつかの具体的な例に共通する一般的な事柄を見出す考え方
演繹的：すでに正しいことが明らかになっている事柄を基にして別の新しい事項が正しいことを説明していく考え方
類推的：既習の内容との類似性に着目して新しい事柄を見いだす考え方

授業づくりのポイント及び評価の観点

＜授業の中に下記の場面があったか＞
・問題発見をする場面・・・